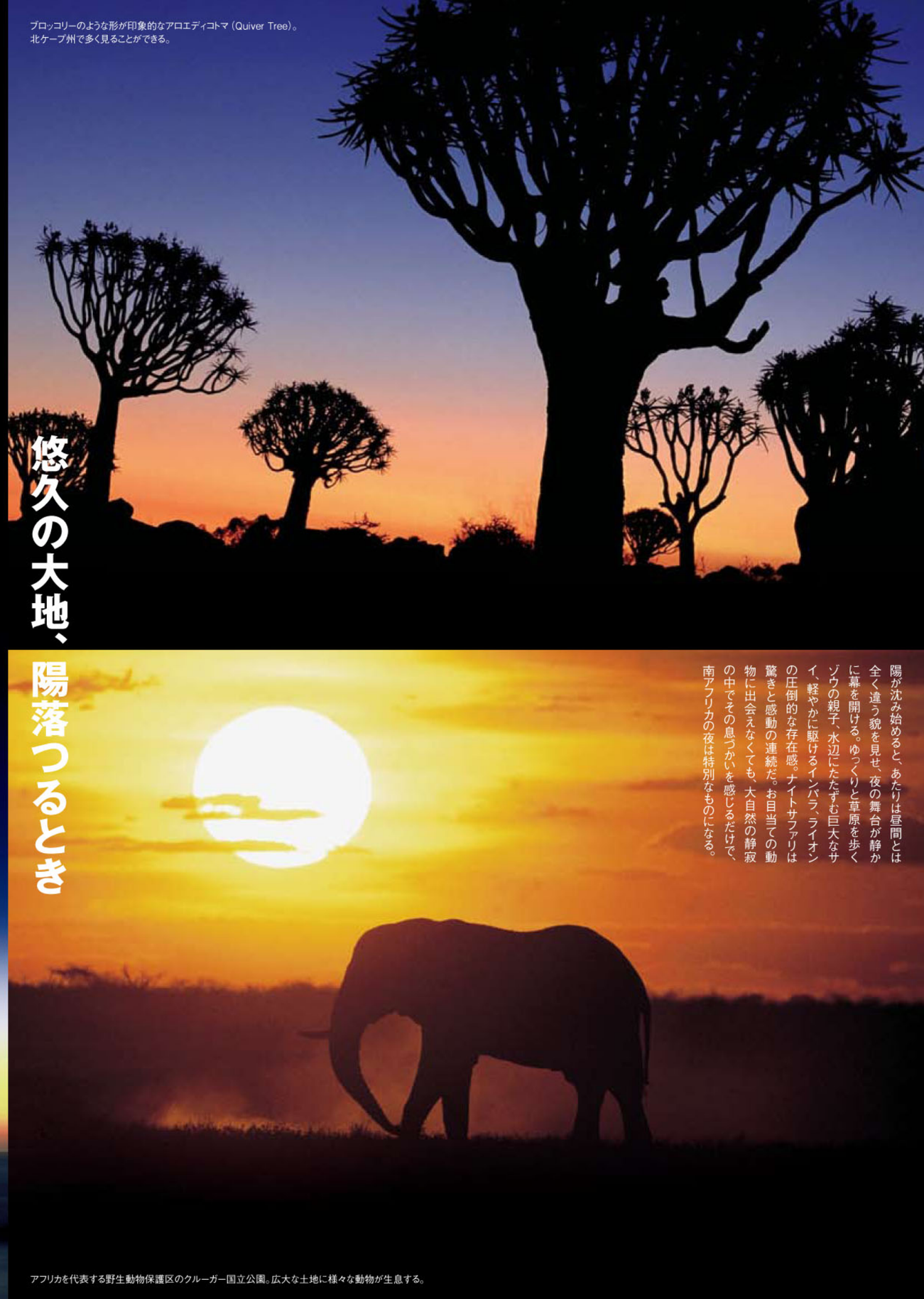
# 不思議の星座、天空に踊る

漆黒の天に輝く南十字星。南半球を象徴するこの星座を一度は見てみたいという人は多い。北半球の人たちとって南の夜空に輝く星座は見たことのないものばかり。大航海時代の船乗りたちはその星々を羅針盤として南の海を航海し、星座として名前を付けた。星を通じてつながる遠い昔と今。南アフリカの夜空は星の数だけロマンに溢れている。

ケープタウンの象徴テーブルマウンテン。夜になるとその眼下に絶景の夜景が広がる。

# 悠久の大地、陽落つるとき



ブロッコリーのような形が印象的なアロエディコトマ（Quiver Tree）。北ケープ州で多く見ることができる。

陽が沈み始めると、あたりは昼間とは全く違う貌を見せ、夜の舞台が静かに幕を開ける。ゆっくりと草原を歩くゾウの親子、水辺にたたずむ巨大なサイ、軽やかに駆けるインパラ、ライオンの圧倒的な存在感。ナイトサファリは驚きと感動の連続だ。お目当ての動物に出会えなくても、大自然の静寂の中でその息づかいを感じるだけで、南アフリカの夜は特別なものになる。

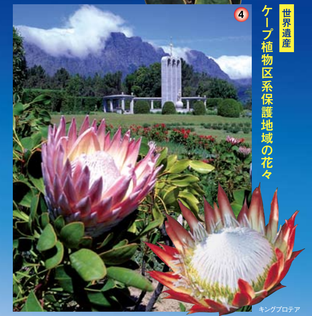
アフリカを代表する野生動物保護区のクルーガー国立公園。広大な土地に様々な動物が生息する。

# 花の楽園 大自然からの贈りもの

南アフリカの大地には「花の楽園」の名にふさわしく多種多様な花々が咲き誇る。その数、実に2000種以上。街全体を藤色に染めるジャカランダ、南アフリカの国花キングプロテア、大地を埋め尽くすデイジー、世界遺産に咲く固有種フィンボス、意外にも日本でも馴染みのあるディジーやガーベラは南アフリカが原産国だ。春の訪れを感じる8月下旬頃から各地で花々が咲き始めると、大地は色鮮やかな景色に変わり、豊潤な花の香りに包まれる。

ストレリチア・レギナエ

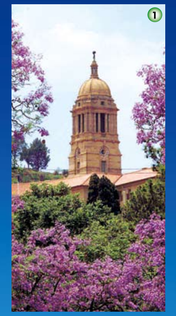
プロテア・スペシオサ


キングプロテア

プロテア・クラークスレッド

③

②


①

花の中心が星型になる「ボカーイ・ビジー」として地元で親しまれるリビングストーンデイジーの仲間 ©CTRU

## 神秘の花園、ナマクワランド

北ケープ州の北西部に広がるナマクワランド。いつもは荒涼とした砂漠が続くこの帯も、一年に一度恵みの雨が降ることによって、春が訪まる8月下旬から9月上旬にかけて、色鮮やかなワイルドフラワーに埋め尽くされる。花の咲く時期や場所は毎年変わり、寿命も短い幻の花の絨毯。それだけにこのデイジーやガザニアには神秘的な美しさがある。

## 感動的なコスモスカントリー

「コスモスの国」クリアウォーターが秋を代表する花。日本と同じようにコスモスを見るための秋の訪れを感じるという。ムプマランガ州、ハウテン州、フリーステート州をまたぐ広い紅山地帯はコスモスカントリーと呼ばれ、コハネスブルグからアクセスしやすいのも魅力。夏が終わりに向けてピンクや白のコスモスが一斉に咲き乱れ、その光景は圧巻だ。

## 街中を藤色に染めるジャカランダ

南アフリカの首都プレトリアの名物が約7万本にもおよぶジャカランダの街路樹。10月～11月にかけて花が一斉に咲くと、街中を藤色に染め、美しい光景に。南アフリカ北東部、ムプマランガ州北東部にある世界三大滝の一つ、「雷鳴とどろく煙」の意味を持つビクトリアフォールズ。時間の経過とともに変化する滝の姿を眺めながら、優雅なクルーズがお勧めだ。

## 世界遺産 ケープ植物区系保護地域の花々

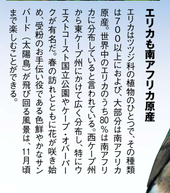
南アフリカを代表する花のひとつ、プロテア。その種類はおよそ100種類にもおよぶ。特にキングプロテアは南アフリカの国花として有名。春には直径20センチもの美しいピンクの花を咲かせる。南のインド洋に面した地域に広く分布し、西ケープ州にあるカーステンボッシュ国立植物園にはさまざまなプロテアを集めたプロテア・ガーデンがある。

## 南アフリカの国花キングプロテア

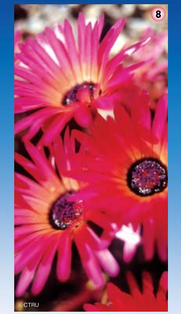
## 針状し型のピンクッション

ピンクッションはプロテアの親戚。文字通り、針刺しピンのような形が特徴的な熱帯植物で、その種類もたくさんあるが、内陸部のセダーバーグ山地固有のピンクッションは成長するとの3メートルにも達する。ケープタウンのテーブルマウンテン付近でよく見られるのがトルーピンクッション。茎の先端に複数の花を咲かせるピンクッションも必見。

エリカ・ウェルシコロルとオナガゴンベタイヨウチョウ


ロケット・ピンクッション

⑤


⑥

⑦ ©CTRU

エリカ・ディスコロルとミナミジキタイヨウウチョウ

## エリカも南アフリカ原産

エリカはツツジ科の植物のひとつで、その種は、ヨーロッパ、アフリカ、アジアを中心に原産。世界中のエリカのうち90%は南アフリカから東ケープ州にかけて広く分布している。西ケープ州のケープ・タウンにある国立公園やケープ・オハバーグ、受粉のお手伝い役である色鮮やかなサンバード（太陽鳥）が飛び回る風景は、11月頃まで楽しむことができる。

## 日本でも身近なアロエ

日本でも身近な存在のアロエは300種以上あると言われ、原産地はアフリカ大陸南部に集中している。キダチアロエは観賞用としてだけでなく、日本でも広く普及。その名の通り、立ち上がるように茎が伸び、赤褐色の花をつける。葉内部のゼリー状の部分は殺菌などに特徴。南アフリカでは化粧品の原料として広く栽培されている。

ケープギツネ

ホロホロ鳥

ウトソニアが群生する西ケープ州

## 野生動物とワイルドフラワー

自然のままの野生動物とワイルドフラワーの開花を見られるのも南アフリカの魅力。人間の手が入っていない動物たちは、本能的にこなれていて、なかなか近づけない動物ではあるけれども、ここでしか出会えない動物ごこそ、忘れられない花々、その微妙な開花の記憶も深まる。南アフリカの大自然を、もっと楽しみたいならサファリへ。そこにはさらに深い感動の景色が広がっている。

## 南アに咲くユニークな花々

「花の楽園」にふさわしく南アフリカには、まさまざまなユニークな花や多肉植物が。南アフリカの固有種、アロエ、ユルリア、アガパンサ、おなじみ、キョウチクトウなど種類も、色も、形も、大きさもさまざまだ。分布地域もいろいろ。南アフリカ各地で楽しむことができる。

アラーム・サボテン

グロリオサ・リリー

## 可憐に咲くアイスプラント

葉の表面が凍ったように見えることからその名がついたアイスプラント。南アフリカ原産ツルナ科の多肉植物で、初夏になると花を咲かせる。最近では、その葉が地中のミネラルを吸い上げることから、体にいい食材としても注目されている。南アフリカは、周囲の大西洋やインド洋沿いに広く群生している。

南アフリカ観光局 www.southafrica.net